

# 築理会報 97 新年号

1997年2月発行 Vol.17

発行所：東京都新宿区神楽坂1-3

東京理科大学工学部 ・ 部建築学科

築理会事務局 03-3260-4271(内3293)

03-3235-6897(FAX)

## - 幹事会より -

今号は1996年の報告・反省と1997年の築理会の目標を特集します。

## 会員の皆様へ

八木 嘉也(部3期)  
(株)丸ノ内建築事務所

一昨年(1995)の1月末に「築理会」会長に就任してから早いもので1期2年がたちました。初期の目的の活動ができましたかどうか考えています。

新体制になってから、新常任幹事及び各期の幹事を中心として会の活性化をめざして活動してきました。皆様の積極的な行動で1年目は活発な活動が出来まして、会報の定期的な発行、セミナーの開催、見学会の開催、名簿の現行化と発行と徐々に軌道に乗ってきました。私も会長に就任した当時は充電期間で比較的時間にゆとりがありましたので、活動にも積極的に参加できて効果があがったと思います。しかし、2年目の慣れからマンネリ感がありまして活性化に鈍りがたのではないかと反省もしています。

常任幹事をはじめ幹事の皆様も忙しい中で1年目に全力投球をしていただき成果をあげました。それぞれ職場で大変重要な立場にありまして、時間をさきにくい面もあり、1年目に力が入った分全体として安心感と充実感で2年目には安定した動きとなりました。

他の大学の例が業界新聞に掲載されていましたが、東京理科大学より伝統と卒業生の数も多い大学の建築学科のOB会でも、会員の関心を集めることや会費の納入実績の確保、総会の出席人員の確保、会の活動の活性化等悩みは同じであることが書かれていました。いずこも同じ悩みを持っているのだと興味を持って読みました。総会の開催に目新しい企画をするなど努力をされている様子がありましたが、それでもまだまだ活性化につながらないと悩みを訴えておられました。会の会員に対するつなぎ止めには定期的な情報提供が大切なことと、興味のある企画を行うことが必要でそのための活動をいかにして企画するかをさらに考えていきたいと思っています。

最近各地において、地区会が設立されておりますので、その活動にも積極的に援助していきたいと考えています。ですから各地でそれぞれ積極的に地区会の設立をお願いします。

会費の納入実績をあげるためにも東京中心の活動だけでなく、各地の活動にフィードバックするような仕組みも考えて、今年から組織の活性化に積極的に取り

組みたいと考えています。

会の運営は会報の発行や名簿の発行など会員の皆様の納める会費でまかなっているわけですので、会費の納入につきまして格段のご配慮をお願いしております。

東京理科大学の工学部建築学科卒業生はまだまだ現役で活躍している人ばかりで各方面で相当の活躍をされていますので、皆様にとっての「築理会」とはどうあるべきか、何が必要なかを原点に戻って考えていきたいと思っています。そのためには数多くの会員のご協力と積極的な関わりが必要ですので、会報の編集・発行や事業(セミナーの講師、見学会の企画、その他の行事)等への関わりを期間限定でも良いですから(たとえばこの数ヶ月は手伝える等)ボランティアとして参加をお願いする所です。

現在は各幹事とも会の運営にボランティア的にお忙しい中をご協力いただいています。大変感謝しております。

それだけに各期の幹事を1ないし2人を選出していただき、各期の横の連携を強めることから始めて、それが縦のつながりに広がるように、各期の集まりを定期的開催できるような仕組みを考えたいし、皆様の積極的な活動を希望します。

会報を年4回発行していますが、1度に三千部を同じ関係業務に携わる方に送付しているのはかなりのインパクトがあるようですので、なお一層の会報の充実を計って、皆様の役に立つ情報や関心のある話題を提供できるようにしていきたいと思っています。

若いときは自分のことを考えることが多いのですが、同じ大学で学んだということをいろんな意味で活用できるように、この会を盛り上げ、積極的な参加をお願いします。

3月には定例の総会が開催されますので、数多くの会員の参加を期待しております。

## 平成8年 築理会決算報告

	収入		支出	
平成7年繰越金		¥ 1,201,453		
築理会会費		¥ 2,339,297		
築理会会報			会報(9027部)	¥ 1,186,893
			封入・郵送費	¥ 808,528
セミナー(6回)	参加費(計96名)	¥ 176,000	会場費	¥ 62,250
			御礼	¥ 50,000
通信・その他			事務費	¥ 67,132
			通信費	¥ 38,563
			幹事会関連費	¥ 115,634
	銀行利息	¥ 321		
合計		¥ 3,717,071		¥ 2,329,000

(平成9年1月13日付)

## 2年間を振り返って

坂下 誠 (部2期卒)

### (株)インテグリティ スカラベ代表取締役

副会長の任をお引き受けした時、『部 部の橋渡しの役割として、築理会の発展に微力ながら貢献したい』とこの会報で初心を述べてから、早2年。

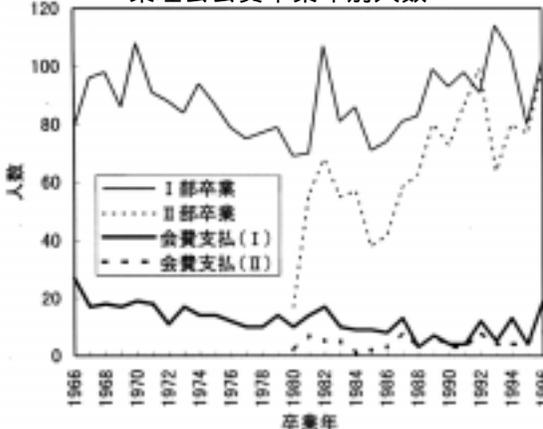
この間、部各期幹事の方々にも企画総務委員会、事業委員会、名簿委員会、会報委員会の委員として活動にご協力を頂きました。お陰様で今までにない活発な活動が行えた2年間ではなかったかと自画自賛しております。

このような組織活動を支え続けたのは、忙しい時間をさいて動いて頂いた幹事、委員一人一人のボランティア精神です。本当にご苦労様でした。その精神を形に現してくれたのが、会員皆様の会費でした。

ここに卒業年別の会費納入状況を掲載いたしました。ちょっと寂しいグラフです。会費支払の線が卒業の線にもう少し近づいたグラフを来年は掲載できるよう、今年の会費納入にご協力をお願いいたします。多くのボランティアと、多くの会費で、引き続き活発な活動がなされることを期待します。現在 部では、6,7,9,11,14期卒業の幹事が不在です。この場をお借りし、幹事を募集いたします。自薦、他薦を問わず築理会事務局までご連絡下さい。

数多くの卒業生の方々と交流できたのは、この2年間の大切な財産となりました。軌道に乗った各委員会の活動が順調に発展するよう、卒業生の一人として築理会に携わり続けていきたいと思っています。継続は力なり、です。

築理会会員卒業年別人数



## 事業委員会の活動報告と展望

河合 康夫 (部8期)

### 三井建設(株)構造設計部

早いもので平成8年度の活動を総括する時期となりました。事業委員会では、下記の活動を実施して参りました。先生方そして会員皆様のご協力により実施することができまして、この紙面をお借りして厚く御

礼申し上げます。この1年間の活動報告・反省と平成9年度へ向けての展望について触れてみたいと思います。

### 1. 活動実施項目

- 1 築理会幹事会、懇親会
- 2 新会員歓迎懇親会
- 3 現場見学会
- 4 研究セミナー

### 2. 各活動の内容

各活動の概要について報告します。

#### 1) 築理会幹事会、懇親会

日 時: 1月19日、場所: 理窓会館

出席者: OB会員22名、先生方5名

内 容: 平成8年度の活動方針の連絡及び先生方と会員相互の築理会活動の今後へ向けての意見交換

#### 2) 新会員歓迎懇親会

日 時: 3月18日、場所: 家の光ビル

出席者: 総数43名、先生方2名

内 容: 卒業生を対象に築理会活動の概要説明及び会員相互、そして先生方との懇親を図る目的で実施

#### 3) 現場見学会

日 時: 5月31日、

場 所: 東京国立博物館平成館

出席者: 16名

内 容: 安井建築設計事務所のご好意により仕上げ工事を中心に見学会を実施

#### 4) 研究セミナー

日 時: 下記に記載

場 所: 理窓会館会議室

研究セミナーは、上半期3回、下半期2回の計5回実施しました。概要について述べます。

上半期 総参加者98名(内、学生34名)

第1回、2月2日、大岩昭之先生

「CD-ROM、チベット建築～知られざる建築を訪ねて」

第2回、3月1日、日笠端先生

「都市計画からみた都市不燃化促進の方策」

第3回、5月10日、伊藤裕久先生

「中世の空間」

下半期 総参加者41名(内、学生9名)

第4回、10月11日、吉沢晋先生

「室内空気環境研究の最近の動向」

第5回、11月29日、清水昭之先生

「建築に於けるコンクリート技術の現状と展望」

### 3. 活動の反省点

#### 1) 全体として

いずれの活動に於いても参加者が少ないということが挙げられると思います。研究セミナーの場合は1回当たりの平均出席者数が28名程度です。会報に事前に予告記事を掲載しておりますが時間的な問題もあり、忘れてしまうということが最も大きいかと思えます。さらには、各期毎の連絡網的なものがないので再度連絡したい場合にも充分できないということも考えられると思います。

#### 2) 参加形態について

築理会活動へ参加できるのは、主に東京近郊に居住する会員に限定されています。それ以外の会員に対する活動形態を検討する必要があると思います。

#### 4.平成9年度へ向けての展望

平成8年度の活動の反省を踏まえて平成9年度は下記内容について検討したいと思います。

##### 1)各種催物の出席者増に向けて

各期幹事への案内とその期の会員への連絡のお願いの実施(最低限、各期の幹事が決まっている必要があります)。

雑誌への公示(例:日経BP(社)等)

##### 2)研究セミナーについて

開催時期と回数について

会場及び先生方の都合により、全5回とし5月、6月、7月、10月、11月を基本としたいと思います。

参加費について

築理会費納入者とその他の人で区分したいと考えています。

講師・企画について

理科大OB及び外部の方々に参加していただき盛り上げたいと思います。

##### 3)情報化時代への対応

インターネットに築理会のホームページを設置し会員相互の情報交流をぜひ実施したいと思います。

事業委員会:鄭裕子、小泉隆、佐野吉彦、河合康夫

## 名簿発行にあたって

田中 治(部11期)  
東京理科大学助手

前任者である岩井氏から引き継ぎ、我々5名のメンバーで平成9年度版名簿(新卒業予定者掲載)発行から担当することになりました。刷り上がりは3月初旬を予定しております。当初名簿データはdBASEで構築し、その後岩井氏がMicrosoft Accessに変換し現在に至っております。名簿もより正確に、より有用に使えるようにとのことで更新して参りましたが皆様のご協力があったはじめて実現できることといえます。今回新たにFAX番号を加えることと致しましたが、電子メールのアドレスに関しては、未だ寄せられた情報も少なく、今後増設して行くもの一つと考えております。その他、皆様方からのご意見もお聞かせ頂ければ可能な限り反映させて行くつもりです。

今年度版名簿は製本形式を変更いたしました。会員数の増加とともにページ数が増し、製本の単価が無視できなくなったためA-4縦版とし、コンパクト化を計ることいたしました。今後のためにも取り扱い上のご意見等、何なりとお聞かせ下さい。また名簿印刷費の負担を少なくするために試験的に広告を掲載致しました。今後OB皆様方の関連企業からもご協力いただけるように考えて参りますので、詳細・ご意見は事務局宛FAXにてお願いします。

名簿は3月中に会費納入者宛に送付いたします。この機会に会費の納入をお願いいたします。

現在の会員数(この3月卒業予定者は含まず)は3842名となっています。

名簿データのサービスに関して、企業名・地方別などの検索結果がご利用いただけます。出力は名簿形式あるいは宛名シールなどの出力結果のみのサービスとし、安全上テキストなどのデータ出力は当面サービス対象外と致します。同期会・お仲間が集まるときなど、おおいにご利用下さい。

住所・連絡先不明会員調査のお願いに関して、別紙の会員住所不明者名簿に掲載のように1月末の時点での不明者数は690名となり、会員数の増加に伴い皆様からの情報・協力がなければ調べきれない状況になっております。少しでも多くの情報をお待ちしております。お寄せいただいた情報にも既に連絡不通になったものも多く、出力には出ない古いデータとの参照のうえ更新するようしております。したがって手数もかかり、ご本人のプライバシーの問題から空白にしている場合もあり、理想的には直接ご本人からの連絡が望ましく、連絡をしていただけるようにことづけて頂けましたら幸いです。

名簿委員会 田中治、西澤良彦、吉川和秀、岩井今朝典、  
齊藤栄士

## 会報委員会からの報告

伊谷 峰(部21期)

(株)竹中工務店東京本店設計部

平成8年は、年間四回の発行をひとまず達成し、安堵の念も束の間、平成9年の発行が息つく間もなく開始してしまいます。

年間4回と言えば季刊となるので、各季節毎集う程度に思っていますが、その実、1~1.5ヵ月に一度ずつ、坂下副会長の御厚意を一身に浴び、インテグリティカへの事務所がその会場の場となります。

主たるメンバーは、森清(日経アーキテック)、細井友治(総合設備工務社)、伊藤学(鹿島)、安達功(日経インストラクション)、平賀一浩(インテグリティカ)そして私と平均年齢は恐らく30代前半、現職学内関係者皆無と云う他の委員会とは少なからず異彩を放つ集団となっております。

昨年は、途中久米氏(ADD都市建築事務所)からの編集長交替というアクシデントもありましたが、弱体ながらも生き延びるしびとさだけは、各メンバー共兼ね備えていたようです。

会合といっても毎回30分から1時間で記事内容の決定と分担を押し付けあい、残り2時間は世間話、宴もたけなわのところでお開きとなります。

毎度、特集記事が頭痛のタネですが、年恰好以外は業種的に共通点のないことが幸いし人数分だけのアイデアは出され、消去法で決定されていく構図が、定式化されつつあります。

昨年は、発行が一義となってしまいました。今年はもう少し視野を広げ、記事の充実化を図りたい、より多くの卒業生の方々に原稿の依頼をお願いできる様な体制をしつらえていきたいというのが年頭にあたっての私たちの思いです。

## 秘境 "へ"の旅

大岩 昭之(部3期)  
東京理科大学助手

"秘境"とは広辞苑によると"人跡まれな、様子がよく知られていない土地"と記載されている。しかし最近ではほとんどの地域にテレビカメラが入っていて、人跡まれな初めての映像というのも少なくなった。そして、その気になれば一般の人でも、大概のところには行けるようになった。このような意味では、ほんとうの秘境というのは、もう世界中でもなくなってきたともいえる。

私は1982年に"秘境"といわれるインドの北西部ラダックへ行ってから、もっぱらチベット圏への旅を続けている。チベット(中国のチベット自治区だけでなく広い意味でのチベット文化圏)は世界の中でも最も秘境であったところである。しかしこの地域の未開放地区にもかなり外国人が入れるようになった。

私は昨年の夏、ヒマラヤ(ネパール)の奥地、ドルポに入った。ドルポはまだ日本人がほとんど入っていない地域である(近年では10chのニュースステーションで紹介、また根深誠「遥かなるチベット」にでている)。正確な地図も出版されていないので、ほんとうの"秘境"だろうと思って行った。やはり日本人は、私たちがその年の最初のグループであった。(グループで特別のパーミッションを申請しないと入れない)。しかし欧米人はかなり来ている。昨年は私たち6名を含めると270名(8月末)だとチェックポストの役人がいっていた。ところで、ヒマラヤのトレッキングでは、どこに行ってもよく日本人に会うがここには来ていない。なぜだろうか。それは日本の休暇制度にもよるのだろう。このドルポ地区に入るためにはどうしても1ヶ月近くはかかる(私たちは30日の日程であった)。なかなか今の日本ではこれだけの休暇を取れるところは少ない。向こうで会ったフランスのグループは2ヶ月の予定で入っているといていたが、日本ではちょっと考えられない。"秘境"に行けるのも国の事情に大いに関係があるようである。今回の旅行での最も奥地、チベット(中国)国境近くのヤンジェル・ゴンパの手前で、国境を越えて行商に来ているチベット人の数人づれに会った。商品としてはビール、お酒、靴、乾電池など、私たちは躊躇なくビール20本、2400ルピー(約5千円)で買った。思わぬところでビールを飲めたわけだが、このようなところにもどんどん消費社会は入ってきている。

写真のヤンジェル・ゴンパはこの地域で最も重要なゴンパ(寺院)であり、チョルテン(仏塔)のあるお堂には貴重な壁画も残されている。しかし一

般的には、ドルポのゴンパには価値の高い壁画などは少ないようである。なおヤンジェル・ゴンパは外部の人たちには、門を閉ざしているが、今回、私たちは同行したリエゾン・オフィサーのタガール氏の努力と日本から来た同じ仏教徒ということで特別に中に入ることができた。

帰りはトレッキングの終了地、ジュファルからヘリ、小型機、国際線を乗り継いで24時間もかからずに関西空港に着いていた。ちなみに40年程前この地域に入ったスネルグローブ「ヒマラヤ巡礼」ではヘリで今回45分間であったネパールガンジまでの間を27日間費やしている。やはりドルポももう"秘境"ではないのだろう。



ヤンジェル・ゴンパ(ドルポ,ネパール)チベット国境も近い

## 猿岩石にあこがれて(続編)

平岩石 改め平賀 一洸(部16期)  
(株)インテグリティ スカラベ

前号の続きです。また載せることが出来ました。

僕はイタリアレイルカードの30日というのを持っていったんですが、この種のパス類はみんな使い始める日にバリデイトという事をしなくてはならないんです。要するにただハンコを押してもらっただけなんです。すぐ済むだろうと思っていたらそのたかがハンコごときにすごい苦労してしまいました。最初切符売場の窓口で並んで(すごい人がたくさん並んでいる)バリデイトしてもらおうとしたら、「ここじゃない、あっちへいけ(もちろんイタリア語で)みたいと言われたので、そのおばちゃんが指さした方へいってみるとホームの入口の窓口しかありません。しょうがないのでそこのおっちゃんに聞いたら「あっちだよ」って今度はまた切符売場の方を指さすんです。でまた切符売場の方へ戻りうろうろしていたらインフォメーションがあったので、そこのおねーさんに聞いたらまた「あっちだよ」ってな感じ。そしてさらにうろうろす

る事約10分、ありました、売店の影に、ツーリストインフォメーションが。結局1時間くらいかかってしまいました。要するに一番最初のおばちゃんがついてきて全く反対の方向を指さしていたんですが、それが分かった時には乗る予定だった列車はとっくに行っちゃってしまっていて、次の予定地のアッジジにつくのが半日もおくれちゃいました。まあイタリア人はいつもこんな感じで、この事件で僕も腹が座ったというか、あきらめがついたというか。

例によって次回があるかどうかは解りませんがご期待下さい。

## インフォメーション

97年度 総会・懇親会のお知らせ

日時:1997年3月8日(土)

場所:理窓会館

内容:17:30~18:00 総会 3階会議室

18:00~20:00 懇親会 3階会議室

会費:OB会員8000円、新会員2000円

建築学科の卒業生の数も、部 部合わせて約3800名を擁する規模となりました。この築理会総会を契機に、改めて同期・先輩・後輩とコミュニケーションを図り、人間関係を深め、同窓としての連帯を強化したいと思います。皆様、積極的にご参加・ご参集されることを切望します。

## 築理会 得 情報

今年から会費を払った人だけの特典が倍増します!

**特典1** : 築理会名簿が毎年発行に

年1回最新の名簿があなたのお手元に届きます。いままで連絡がとれなかった人にもすぐにACCESSできます。

**特典2** : 築理会セミナー参加費が50%OFF

セミナーの参加費2000円を1000円に割引  
参加すればするほどお得。

**特典3** : 総会時に会費を払うとさらに割引

3月8日の総会の時に同時に会費を払ってくれる方に限り5000円の会費が

OB会員は4000円、新会員は3000円  
になります。

いままでとはちょっと違う築理会、  
もうこれは会費を払うしかないでしょ。

97年度 築理会セミナーのお知らせ

今年も築理会セミナーを開催すべく計画中です。次の会報には詳しい内容が載りますので、お楽しみに。

## 平成9年会費納入のお願い

今年も会費の納入をお願いする季節になりました。本年より築理会では、会員の皆様さらに会費納入をして頂けるよう、納入者の方々へのメリット増大に取り組みました。詳しい内容はインフォメーション欄に掲載してあります。

同封の振込用紙でお振込下さい。

今後の築理会発展のためにご協力をお願いします。

年会費 5,000円

口座名 築理会

郵便振替 00110-5-171952

銀行振込 三菱銀行神楽坂支店 普通 4335597

## 募集します!

**募集その1** : 総会・懇親会への寄付・援助

築理会総会・懇親会での飲み物や食べ物をご寄付していただける方を募集します。会社単位での寄付も歓迎します。あなたのスカラーシップを発揮してください。ご協力をしていただけるという人は、築理会事務局までご一報下さい。

**募集その2** : 会報のネタ

会報委員会では、相変わらず企画を立てるのに四苦八苦しており、引き続き築理会報に載せる記事を募集しています。「こんな特集して!」「こんな宣伝がしたい!」「最近これおもしろいよ!」など、どんな些細な情報でも首を長くしてお待ちしております。

また、建築にこだわらず、おいしい料理の作り方や、うまいラーメン屋情報、あなたの楽しい旅行記、その他なんでも載せていきたいのでどんどんお寄せください。

そして、この会報作成に携わりたい人も募集します。あなたも一緒にビールを飲みながら、会報を作ってみませんか。

築理会あてFAXにてお知らせください。

**編集後記**

最近、仕事の関係で岡山に行くことが頻繁にあるのですが、その姿を徐々に頼りつつある京都駅(原広司設計)出張のたびに車窓から臨んでいます。

建築のスケールと都市の関係を論じる建築家もいるなか、京都出身の私には、また歴史の、それとも冬の京都の純色の空に吸収され消失していく建築が完成して行くようにしかみえません。内部は見えていませんが、北山の音楽ホール(磯崎新設計)が極めて京都市的な処理を施されているのと比べてしまうには少々無理があるかもしれませんが建築空間とスケールの関係というのは、直観的ではありますが微妙なものなんでしょうね。(伊谷 峰)

築理会報97新年号

97年2月発行 Vol.17

編集長 : 伊谷峰

編集委員 : 森清、伊藤学、安達功、

平賀一浩

印刷発送 : グローバルシステム株式会社

